



平成23年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成23年8月5日

上場会社名 グリーンランドリゾート株式会社 上場取引所 大・福
 コード番号 9656 URL <http://www.greenland.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 江里口 俊文 (TEL) 0968 (66) 2111
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長 (氏名) 渡邊 和雄 配当支払開始予定日 平成23年9月2日
 四半期報告書提出予定日 平成23年8月12日
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年12月期第2四半期の連結業績（平成23年1月1日～平成23年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年12月期第2四半期	3,436	△8.7	△63	-	△110	-	△102	-
22年12月期第2四半期	3,765	0.7	117	13.0	64	42.5	20	△3.0

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
23年12月期第2四半期	△10	01	-	-
22年12月期第2四半期	2	04	-	-

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	円	百万円	円	%	円	銭	
23年12月期第2四半期	21,730		9,959		45.8	974	72	
22年12月期	22,016		10,096		45.9	988	13	

(参考) 自己資本 23年12月期第2四半期 9,959百万円 22年12月期 10,096百万円

2. 配当の状況

	年間配当金									
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計					
	円	銭	円	銭	円	銭				
22年12月期	-		2	00	-		4	00	6	00
23年12月期	-		2	00	-		-	-	-	-
23年12月期(予想)	-		-		-		4	00	6	00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無： 無

3. 平成23年12月期の連結業績予想（平成23年1月1日～平成23年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	7,520	△2.7	200	△31.9	100	△48.8	60	△49.8	5	87

(注) 当四半期における業績予想の修正有無： 無

4. その他（詳細は、[添付資料] 4 ページ「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 : 無

新規 - 社 (社名) 、除外 - 社 (社名)

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 : 有

② ①以外の変更 : 無

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

23年12月期 2 Q	10,346,683株	22年12月期	10,346,683株
-------------	-------------	---------	-------------

② 期末自己株式数

23年12月期 2 Q	128,813株	22年12月期	128,813株
-------------	----------	---------	----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

23年12月期 2 Q	10,217,870株	22年12月期 2 Q	10,218,081株
-------------	-------------	-------------	-------------

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、[添付資料] 4 ページ「1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報（3）連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. その他の情報	4
(1) 重要な子会社の異動の概要	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く環境は、九州新幹線の全線開通をはじめ、6月19日まで実施された高速道路休日割引制度等の消費者の外出機会を高める要因がありましたものの、東日本大震災に伴う原発事故による韓国人旅行者の減少や、国内におきましても一時的な自粛ムードが見受けられました。さらに、2月・3月の3連休及び5月下旬から6月にかけての週末の度重なる悪天候の影響もありました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は3,436,609千円（前第2四半期連結累計期間比328,542千円減）となり、経常損失は110,568千円（前第2四半期連結累計期間は経常利益64,607千円）、四半期純損失102,273千円（前第2四半期連結累計期間は20,830千円）となりました。

	当第2四半期 連結累計期間 (千円)	前第2四半期 連結累計期間 (千円)	増減額 (千円)	増減率 (%)
売上高	3,436,609	3,765,152	△328,542	△8.7
営業利益（△損失）	△63,427	117,873	△181,300	—
経常利益（△損失）	△110,568	64,607	△175,176	—
四半期純利益（△損失）	△102,273	20,830	△123,104	—

次に、事業の種類別セグメントごとの業績は次のとおりです。

①遊園地事業

今春、九州の「グリーンランド遊園地」におきましては、「天装戦隊ゴセイジャーVS仮面ライダーオーズハイパーバトル大戦」と題し、期間を前後半に分け、前半の3月12日から4月22日にかけては、天装戦隊ゴセイジャーを、後半の4月23日から6月19日にかけては、仮面ライダーオーズをメインキャラクターとし、巨大ステージで繰り広げる迫力あるアクションショーを開催し、多くのお客様に楽しんでいただきました。さらに、3月12日から5月5日まで「スイートプリキュア♪キラキラハーモニー」と題し、女兒に人気の高いプリキュアをテーマにした体験型アトラクションを開催いたしました。その他にも、3月20日には音楽と光のコラボレーション「スプリングナイトショー」、5月29日には、歴代のプリキュアたちが全員登場した「プリキュアオールスターズがやってくる!」、6月11日には人気絶頂のお笑い芸人「楽しんでお笑いライブ」等、特色のある多彩なイベントを開催し、加えて、新規アトラクション「ウォーターショット」や期間限定アトラクション「キッズアクア」をオープンさせ、集客に努めましたが、2月・3月の3連休や5月下旬から6月にかけての週末の度重なる悪天候により、売上高は前第2四半期連結累計期間比241,243千円減少の1,509,222千円となりました。

「北海道グリーンランドホワイトパーク（スキー場）」におきましては、ここ数年の暖冬から一転して寒波が到来し、連日吹雪が続く時期もあり、スキー利用者数及び売上高が減少いたしました。また、「北海道グリーンランド遊園地」におきまして、ゴールデンウィーク等の休日を中心に、「わんちゃんとおサルさんの大サーカス」や海賊戦隊ゴーカイジャー、仮面ライダーオーズやスイートプリキュア♪等の人気キャラクターを起用した「3大ヒーロー大集合」を開催し、ファミリー層の集客を図りました。さらには、コスプレイベントやカーイベント等を継続して開催し、集客の底上げに努めましたが、ゴールデンウィーク期間中の雨やみぞれ等の悪天候による影響が大きく、売上高は前第2四半期連結累計期間比54,463千円減少の257,229千円となりました。なお、いわみざわ公園管理につきましては、岩見沢市の「ばら制定都市会議（ばらサミット）」の開催が決定し、バラ園整備3年計画に沿った魅力ある施設作りに取り組みました。

その他に、「モビリティおおむた」におきましては、企業や大学サークルでの走行会や大会誘致の営業強化に努めてまいりましたが、昨年は6月に開催された全国ジムカーナ選手権の日程が、9月にずれ込んだこと等により、売上高は前第2四半期連結累計期間比4,333千円減少の16,569千円となりました。

その結果、遊園地事業につきましては、売上高は前第2四半期連結累計期間比300,039千円減少の1,783,022千円となりました。

②ゴルフ事業

ゴルフ事業におきましては、5月21日に、韓国の大邱市にあるパミーヒルズカントリークラブと、韓国では蔚山カントリークラブ・釜山カントリークラブに続き3つ目の相互施設利用契約を締結し、韓国における当社3ゴルフ場の知名度向上、「大牟田ゴルフ場」及び「広川ゴルフ場」の会員権の価値向上及び「グリーンランドリゾートゴルフコース」の付加価値向上に努めました。また、「グリーンランドリゾートゴルフコース」の「水得デー」の開催や、「大牟田ゴルフ場」及び「広川ゴルフ場」の「ステーキ祭り」をはじめ、多彩なイベントを開催し集客を図りました。さらに、ゴルフコンペをはじめとする新規顧客を開拓するため、さらなる営業セールスに取り組んでまいりました。施設面でも、目標旗の設置等により、初めてお見えになる方でも安心してプレイできるような環境整備に取り組んでまいりました。

以上のように、利用者数及び売上高増加に向けた様々な取り組みを行いましたが、震災後のコンペ自粛や韓国人ゴルファーの減少、競合他施設との競争激化に加え、5月下旬から6月の週末毎の悪天候も重なり、利用者数・売上高ともに減少いたしました。

その結果、ゴルフ事業につきましては、売上高は前第2四半期連結累計期間比43,881千円減少の487,663千円となりました。

③ホテル事業

「ホテルブランカ」におきましては、定番の「ビジネスプラン」や「カップルプラン」等に加え、新たに「訳ありプラン」と題した特色のあるプランを販売し、宿泊者数の底上げを図りました。また、客室ベッドの総入れ替えを行い、お客様に快適にお休みいただけるよう努めてまいりました。また、屋上エリア「シエロガーデン」におきましては、新たに樹木を設置する等、ブランカ独自の空間作りに取り組み、付加価値を高めてまいりました。

中庭バーベキューにおきましては、昨年好評でありましたドリンクのセルフサービス式の営業形態を採用するとともに、今年を目玉メニューを「焼きたて餃子」とし、利用者の増加に努めました。以上の取り組みを行ってまいりましたが、宴会及び料飲部門で伸び悩み、全体として低調に推移しました。

「ホテルヴェルデ」におきましては、「楽天トラベル」をはじめとする宿泊予約サイトや自社ホームページでの客室販売を強化し、シーズン毎の展開では、春休みやゴールデンウィークにおけるファミリープランの販売を特に強化しました。レストランにおきましては、週替わりのイベントやデザートブッフェの開催に加え、季節毎のメニュー展開に力を入れ、集客に努めました。婚礼におきましては、ブライダルプランの再構築やホームページの刷新等に取り組み、新規来館者の拡大及び成約件数の増加に努めましたが、他施設との競争激化の影響で婚礼件数が伸び悩みました。また、震災の影響を受け、企業・団体の宴会自粛や、韓国人ツアーの相次ぐキャンセルにより、宿泊部門では国内のお客様でカバーできませんでしたものの、料飲及び宴会部門で伸び悩みました。

「ホテルサンプラザ」におきましては、宿泊客の予約取り込みに加え、婚礼及び法事の獲得に努めるとともに、料飲及び宴会におきましては、ステーキランチバイキングやゴールデンウィークディナーバイキング等、多彩なイベントの開催による集客を図りました。その結果、婚礼並びに法事につきましては、前年と同水準の売上高となりましたものの、宿泊・料飲・宴会が伸び悩み、全体の売上高は減少いたしました。

「北村温泉ホテル」におきましては、地元客をターゲットとして、シャトルバスに温泉と生ビールとおつまみをセットにした「居酒屋バスバック」を販売し、集客に取り組んでまいりました。

以上の結果、ホテル事業につきましては、既存ホテルが震災による自粛の影響もあり、宴会を中心に減収となりましたものの、昨年8月にリニューアルオープンした「北村温泉ホテル」の売上高を加え、売上高は前第2四半期連結累計期間比19,592千円増加の867,699千円となりました。

④不動産事業

不動産事業におきましては、土地賃貸料が前第2四半期連結累計期間と同水準で推移し、売上高は74,406千円となりました。

⑤土木・建設資材事業

土木・建設資材事業におきましては、建設資材受注高が若干減少し、売上高は前第2四半期連結累計期間比3,040千円減少の205,913千円となりました。

⑥その他の事業

その他の事業におきまして、ギフト商品販売業におきましては、婚礼関連のギフト販売が好調に推移いたしました。保険代理店業におきましても、当社グループ内の新規保険契約の獲得により売上高が増加いたしました。しかしながら、労働者派遣事業が伸び悩み、全体の売上高は前第2四半期連結累計期間比1,127千円減少の17,904千円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 流動資産

流動資産は、963,272千円（前連結会計年度末比108,062千円減少）となりました。主な要因は現金及び預金で79,181千円減少したことによるものであります。

② 固定資産

固定資産は、20,767,385千円（前連結会計年度末比178,087千円減少）となりました。主な要因は有形固定資産の減価償却等で178,662千円減少したことによるものであります。

③ 流動負債

流動負債は、3,985,011千円（前連結会計年度末比248,514千円減少）となりました。主な要因は短期借入金で86,367千円減少したことによるものであります。

④ 固定負債

固定負債は、7,786,124千円（前連結会計年度末比99,450千円増加）となりました。主な要因は長期預り金で106,200千円減少したものの、長期借入金で213,980千円増加したことによるものであります。

⑤ 純資産

純資産は、9,959,522千円（前連結会計年度末比137,085千円減少）となりました。主な要因は利益剰余金で143,144千円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成23年12月期の業績予想につきましては、平成23年7月15日に公表いたしました数値から変更はありません。なお、業績予想につきましては、現時点において得られた情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後の経済情勢の変化や事業運営におけるさまざまな状況変化によって、予想の数値と異なる可能性があります。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

1. 簡便な会計処理

(一般債権の貸倒見積高の算定方法)

一般債権の貸倒見積高の算定方法は、当第2四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定する方法としております。

(繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法)

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックスプランニングを利用する方法によっております。

2. 特有の会計処理

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

(資産除去債務に関する会計基準の適用)

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これによる損益に与える影響は軽微であります。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成23年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	234,623	313,804
受取手形及び売掛金	185,737	241,032
有価証券	999	999
商品及び製品	29,214	26,811
原材料及び貯蔵品	38,006	44,157
販売用不動産	347,537	347,537
繰延税金資産	40,831	10,651
その他	108,944	108,358
貸倒引当金	△22,621	△22,017
流動資産合計	963,272	1,071,335
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,023,092	5,169,188
機械装置及び運搬具（純額）	346,518	376,583
土地	14,439,555	14,437,115
その他（純額）	95,548	100,490
有形固定資産合計	19,904,715	20,083,377
無形固定資産		
その他	238,984	239,452
無形固定資産合計	238,984	239,452
投資その他の資産		
投資有価証券	189,697	179,558
繰延税金資産	337,293	343,130
その他	99,463	109,935
貸倒引当金	△2,767	△9,982
投資その他の資産合計	623,686	622,642
固定資産合計	20,767,385	20,945,473
資産合計	21,730,658	22,016,808

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成23年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	42,412	78,148
営業未払金	58,551	66,374
短期借入金	3,535,061	3,621,428
未払金	189,803	260,760
未払法人税等	32,173	66,313
その他	127,009	140,500
流動負債合計	3,985,011	4,233,526
固定負債		
長期借入金	3,754,974	3,540,994
長期預り金	3,850,711	3,956,911
退職給付引当金	35,681	36,949
役員退職慰労引当金	42,538	49,578
その他	102,218	102,240
固定負債合計	7,786,124	7,686,674
負債合計	11,771,136	11,920,200
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,180,101	4,180,101
資本剰余金	4,767,834	4,767,834
利益剰余金	1,069,361	1,212,506
自己株式	△42,154	△42,154
株主資本合計	9,975,143	10,118,288
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△15,621	△21,680
評価・換算差額等合計	△15,621	△21,680
純資産合計	9,959,522	10,096,607
負債純資産合計	21,730,658	22,016,808

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)
売上高	3,765,152	3,436,609
売上原価	3,355,425	3,207,158
売上総利益	409,726	229,451
販売費及び一般管理費	291,853	292,878
営業利益又は営業損失(△)	117,873	△63,427
営業外収益		
受取利息	59	165
受取配当金	1,357	2,311
負ののれん償却額	589	—
受取賃貸料	2,724	2,691
助成金収入	—	5,600
雑収入	3,340	2,340
営業外収益合計	8,072	13,108
営業外費用		
支払利息	60,679	54,628
雑損失	658	5,620
営業外費用合計	61,337	60,249
経常利益又は経常損失(△)	64,607	△110,568
特別利益		
固定資産売却益	358	2,652
貸倒引当金戻入額	317	234
特別利益合計	676	2,886
特別損失		
固定資産除売却損	1,787	1,505
特別損失合計	1,787	1,505
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	63,496	△109,186
法人税、住民税及び事業税	37,617	21,508
法人税等調整額	5,048	△28,421
法人税等合計	42,665	△6,913
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	—	△102,273
四半期純利益又は四半期純損失(△)	20,830	△102,273

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年1月1日 至 平成22年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	63,496	△109,186
減価償却費	227,546	221,935
負ののれん償却額	△589	—
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△3,469	△1,267
貸倒引当金の増減額(△は減少)	275	△6,609
受取利息及び受取配当金	△1,417	△2,476
支払利息	60,679	54,628
固定資産除売却損益(△は益)	1,429	△1,147
売上債権の増減額(△は増加)	20,752	57,705
たな卸資産の増減額(△は増加)	19,416	3,747
仕入債務の増減額(△は減少)	△15,462	△43,558
未払金の増減額(△は減少)	4,638	△51,844
未払消費税等の増減額(△は減少)	△3,873	△18,458
その他	11,628	△7,071
小計	385,051	96,396
利息及び配当金の受取額	1,417	2,476
利息の支払額	△58,444	△57,313
法人税等の支払額	△41,006	△55,285
営業活動によるキャッシュ・フロー	287,017	△13,725
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△600	△3,000
有価証券の取得による支出	△998	△999
有価証券の売却による収入	997	998
有形固定資産の取得による支出	△67,484	△48,472
有形固定資産の売却による収入	642	2,706
無形固定資産の取得による支出	△350	—
その他	△110	1,656
投資活動によるキャッシュ・フロー	△67,903	△47,110
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△130,000	△68,000
長期借入れによる収入	1,070,000	1,000,000
長期借入金の返済による支出	△1,052,079	△804,387
社債の償還による支出	△86,000	—
長期預り金の返還による支出	△110,666	△106,200
自己株式の取得による支出	△32	—
配当金の支払額	△50,663	△40,499
その他	△1,740	△2,259
財務活動によるキャッシュ・フロー	△361,182	△21,346
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△142,068	△82,181
現金及び現金同等物の期首残高	522,175	310,504
現金及び現金同等物の四半期末残高	380,106	228,323

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

	前第2四半期連結累計期間（自平成22年1月1日 至平成22年6月30日）								
	遊園地事業 (千円)	ゴルフ事業 (千円)	ホテル事業 (千円)	不動産事業 (千円)	土木・建設 資材事業 (千円)	その他の 事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高									
(1) 外部顧客に対する売上高	2,083,061	531,544	848,106	74,453	208,954	19,031	3,765,152	—	3,765,152
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	1,698	5,534	36,593	491	879	39,718	84,916	(84,916)	—
計	2,084,760	537,079	884,700	74,944	209,833	58,750	3,850,069	(84,916)	3,765,152
営業利益 (△損失)	187,667	△24,974	△7,779	37,802	67,103	3,738	263,558	(145,685)	117,873

(注) 1. 事業区分は営業種目の類似性により区分しております。

2. 各事業の主な営業種目

- (1) 遊園地事業…………… グリーンランド、北海道グリーンランド遊園地、北海道グリーンランドホワイトパーク（スキー場）、モビリティおおむた
- (2) ゴルフ事業…………… グリーンランドリゾートゴルフコース、有明カントリークラブ大牟田ゴルフ場、久留米カントリークラブ広川ゴルフ場
- (3) ホテル事業…………… グリーンランドリゾートオフィシャルホテルブランカ、北海道グリーンランドホテルサンブラザ、グリーンランドリゾートオフィシャルホテルヴェルデ
- (4) 不動産事業…………… 不動産の賃貸、売買
- (5) 土木・建設資材事業… 建設資材の製造・販売・運搬
- (6) その他の事業…………… 生損保保険代理店等営業業務、労働者派遣業務

【所在地別セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間（自平成22年1月1日 至平成22年6月30日）

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

前第2四半期連結累計期間（自平成22年1月1日 至平成22年6月30日）

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、遊園地やホテル等の経営及び運営等を主な事業としていることから、サービス別に報告セグメントを、「遊園地事業」、「ゴルフ事業」、「ホテル事業」、「不動産事業」、「土木・建設資材事業」、「その他の事業」として識別しております。

- 遊園地事業 : 遊園地・スキー場等の経営、運営
- ゴルフ事業 : ゴルフ場の経営、運営
- ホテル事業 : ホテルの経営、運営
- 不動産事業 : 不動産の賃貸、売買
- 土木・建設資材事業 : 建設資材の製造、販売、運搬
- その他の事業 : 生損保保険代理店等営業業務、労働派遣業務

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第2四半期連結累計期間（自 平成23年1月1日 至 平成23年6月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント							調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	遊園地事業	ゴルフ事業	ホテル事業	不動産事業	土木・建設 資材事業	その他の 業	計		
売上高									
外部顧客への売上高	1,783,022	487,663	867,699	74,406	205,913	17,904	3,436,609	－	3,436,609
セグメント間の内部売上 高又は振替高	1,805	10,392	33,887	10,270	2,151	38,049	96,557	△96,557	－
計	1,784,828	498,055	901,587	84,676	208,065	55,954	3,533,166	△96,557	3,436,609
セグメント利益又は損失(△)	85,223	△35,680	△48,965	46,363	34,597	3,155	84,695	△148,122	△63,427

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△142,212千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。